～抗てんかん薬内服中の患者さんにおける
局所麻酔下手術の周術期と抗生物質の注意点について～

原則：
・日頃のてんかん診療を行っている主治医の治療方針に沿って対応する。
・術前にてんかんの状態を判断する必要があれば、臨床情報の問い合わせや脳波検査等を施行する。
・抗てんかん薬は処方通り定時に内服し、処置の影響で内服できない可能性が高ければ事前に対応を相談する。
・院内に脳神経内科や脳外科医師がいる場合はコンサルトを検討する。

□ **ニューキノロン系抗生物質と NSAID s**：ニューキノロン系抗生物質はてんかんの発作閾値を下げることがあります。特に NSAIDs との併用ではその傾向が強まるので可能な限り控えることが望ましいとされています。

□ **マクロライド系抗生物質：**カルバマゼピン（商品名：テグレトール）を内服中の患者さんでは、マクロライド系抗生物質の使用でカルバマゼピンの血中濃度が上昇します。場合によっては 2 倍近くにまで上昇し、ふらつき・傾眠などの副作用が出ることがあるためご注意ください。

□ **カルバペネム系抗生物質：**バルプロ酸（商品名：デパケン、バレリン、セレニカ、バルプロ酸 Na）を内服中の患者さんは原則カルバペネム系抗生物質が併用禁忌とされています。重症感染症などで使用が必要な際にはバルプロ酸の血中濃度を頻回に測定する、その他の抗てんかん薬に一時的に変更するなど専門医の指示を仰いでください。

□ **光過敏性への配慮：**特発性全般てんかんや後頭葉てんかんの患者様では一部の方で光過敏性があり、光刺激が発作の誘因になることがあります。処置時の無影灯の角度などにはご配慮いただければ幸いです。

文責： 京都大学医学部附属病院 てんかん診療支援センター（2019 年 4 月 18 日 作成）